



令和7(2025)年4月23日

校長だより Vol.1



「希望」と「幸福」に満ち溢れた一年にしていきましょう！

落ちてきたら 今度は もっと高く もっともっと高く
何度でも打ち上げよう 美しい願いごとのように

「紙風船」 黒田三郎 (詩集『もっと高く』1964年)

令和元年から2年間、焼津市立和田中学校に中高交流でお世話になっていました。かつては8クラス規模の大きな学校でしたが、最近では1学年2〜3クラス。水産加工団地が近くにあるためか、外国人籍の生徒（フィリピン、ブラジル、中国など）が多く、全体の約19%、5人に一人が外国にルーツがある生徒がいる学校でした。小学7年生のような幼い感じの生徒もいれば、港町気質のやんちゃな生徒もいたりバラエティーに富んでいて、教頭でしたので授業を持ち、一緒にプールに入ったり、給食を食べたり、雨漏りがするというのは、技能員さんと一緒に屋上に登ったりと、忙しくも楽しい時間を過ごしました。朝の打ち合わせが終わると、職員室は私だけ。登校したのか心配になって訪ねてくる外国籍の生徒のお母さんに、翻訳機を使って「大丈夫、来ていますよ。」なんてやり取りをする毎日でもありました。知り合いもなくて、しばらくは孤立無援の状態。エアコンの配備、ペーパーレス化、コロナの影響でGIGAスクール構想の前倒しのための突貫工事的なICT環境整備など、平常時と比して多忙な毎日でした。高校から来た教頭先生はこんなものなのか、と思われちゃあいけない一心で必死に過ごしていたそんなある日、1年の学年主任をしていた先輩教諭が、「私、この詩が好きなんですよ。」と言って、紹介してくれた詩です。もう、紙風船で遊んでいる子供の風景を見ることはほとんどありませんので、ピンとこない若い先生方もいると思いますが、新しい一年が始まったこともあり、御紹介したくなりました。

フー——っと、息を吹き込んで膨らませた紙風船。
ポーン、ポーンと手のひらで跳ね上げる度に、丸〜い形がだんだんひしゃげてきて、
そのうち弾まなくなる。もう一度フー——っと、息を吹き込んで、最初から…。
「願いごと」もそんなものかもしれません。
最初は勢いつけて大きく弾ませられるけど、落ちてくる度、形が崩れてきて…。
でも、だからこそ、もう一度息を吹き込んで、「もっと高く」と打ち上げる。
気持ちをリセットしては、チャレンジする。足元の現実を見れば、あれやこれやが絡んできて、
身動きが取れない気持ちになったりすることもあります。

でも、そんな時だからこそ、何度でも何度でも、空を見上げながら、紙風船を打ち上げましょう。

「希望」という紙風船を毎日打ち上げ続けましょう。

「幸福」はその積み重ねで感じられるようになりたいですね。 生徒も私たちも…。

なぜ、「希望」と「幸福」という言葉を使ったのか。その理由は別の機会にお話しするつもりです。





生徒の様子はどうですか？

新年度が始まり、1か月が経過しました。 どうですか？ 生徒たちは新しい環境の中で、良好な人間関係を築けているのでしょうか。はじめはかなり緊張していたと思います。

きっと、学校にも慣れてきて気持ちが楽になった分、緊張感が緩む時期でもあり、同時に、貯めてきたストレスが膨らんでいるかもしれません。ゴールデンウィークまで持ちこたえられない生徒は、欠席・遅刻など、目に見える形で信号を発しているかもしれません。その反対に、悩みを抱えていても、表出しにくい生徒もいることでしょう。これまで以上にアンテナの感度を少し高めて、生徒の様子（変化）をいち早く察知してください。

◇最近、冴えない表情しているな… ◇休み時間、一人であることが多いかな…
◇欠席が3日続いたな… ◇保健室の利用が多いな… ◇妙にハイテンションだな…

学校は大きな集団生活の場です。1クラス40人、学年で約160人。全校では約500人。なかなか一人の目では把握しきれません。生徒には、一人一人にそれぞれの人格があり、個性があります。また、それぞれの背景（物語り）があります。担任の先生だけではなく、授業担当、部活動顧問、清掃監督など、たくさんの先生方の目を見て、小さな変化に気付いてあげてください。授業の合間やランチタイムなどで、気になることは早めに情報共有しましょう。

大小に関わらず、まずは学年主任の先生や、管理職への報告・連絡・相談を徹底してください。保護者との協力関係も大切です。一人ひとりの生徒に、校内外を問わず、多くの大人が積極的にかかわり、様々な角度から支援の手を差し伸べていきましょう。

「授業づくり」は「人づくり」

「人づくり」は「授業づくり」

生徒の学校生活の7～8割は授業です。改めて授業を大切にしましょう。

- ・単元目標は明確か。目標達成のための道筋は整っているか。
- ・一方通行の授業になっていないか。（教員ばかりが喋り続ける授業になっていないか。）
- ・1時間の授業の中に、「課題」と「問い」が明確に用意されているか。
- ・教科内で、学習内容や進度について、共同歩調が取られているか。
- ・生徒の学習状況を途中でモニターする、「形成的評価」が適切に行われているか。



誰にとっても予測困難な VUCA 社会を、しなやかで健全に『生きていく』ためには、生徒の学びがそうであるように、私たち大人も未経験だったことや新たな試みにチャレンジしていく必要があります。

「授業づくり」は「人づくり」 「人づくり」は「授業づくり」です。教科での学びはもちろんですが、総合的な探究の時間 わたしたちの「ともえタイム」での学びを大切にしていきたいです。

それから・・・

職員室内等での雑談から、新たな気づきや発見が生まれることがあります。先生方同士が気軽に声を掛け合うことで、ストレスを軽減する効果も期待できます。

「おはようございます。」 「〇〇について、こうしようと思うのですが・・・。」

「何か手伝えることはないですか。」 「ありがとうございました！」 「お疲れさまでした！」

何気なく、気軽に話し合える職場であってほしいと思います。

本年度初めに、先生方に『清水西高校ってどんな学校ですか？』と質問しました。

生徒も私たちも、異口同音に『西高は〇〇です。』『〇〇に力を入れています。』『目玉は〇〇です。』

そんな風に、自慢気に語ることができる「学校づくり」を、皆さんと共に実現したいと思います。

なにはともあれ、一か月お疲れさまでした。ゴールデンウィークには、リフレッシュを！